

平成27年11月18日

保護者の皆様

札幌市立手稲北小学校

校長 串山 昇

「全国学力・学習状況調査」の結果について

初霜の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しまして温かいご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、今年4月に6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」における本校の結果の概要についてまとめましたので、お知らせいたします。子どもたちのよりよい育成のために、学校と家庭で協力し、改善に努めていきたいと考えます。どうぞ、よろしく願いいたします。

学校と家庭での学習や生活の様子

生活面の質問事項から

- ・全国平均に比べて、毎日朝食を食べている子がやや多いです。
- ・全国平均に比べて、新聞を読む子が多いです。
- ・全国平均に比べて、今住んでいる地域の行事に参加している子がやや少ないです。
- ・全国平均に比べて、平日(月曜日～金曜日) 1日当たり4時間以上テレビゲームをする子が多いです。

学習面の質問事項から

- ・全国平均に比べて、学校以外で勉強する時間は、平日(月曜日～金曜日)、休日ともに少ないです。
- ・全国平均に比べて、家で学校の宿題を全くしない子が多いです。
- ・全国平均に比べて、家で学校の授業の予習と復習をする子がやや少ないです。
- ・全国平均に比べて、国語が好きな子は多く、算数が好きな子はやや少ないです。
- ・全国平均に比べて、学校以外で読書をする時間は多いです。

この調査は、子どもの学習状況及び、それに関わる生活状況についてのアンケート結果の中から特徴的なもののみ掲載したものです。

日常生活においては、起床時刻や就寝時刻、食事について規則正しく生活する傾向があります。一方で、テレビゲームをする時間が長く、学校の宿題や予習復習をする時間が短いです。このことから、子どもと一緒に大人が時間の使い方を考えていくことが大切だと思えます。

国 語

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」の正答率は全国平均を下回っている。

「書くこと」の正答率は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

「書くこと」「読むこと」の正答率は、全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

目的や意図に応じて話の内容に対する聞き方を工夫すること。

新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えること。

学年別漢字配当表に示されている前の学年までに配当されている漢字を正しく書くこと。

目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと。

登場人物の行動や会話、情景を基にして、場面の移り変わりを捉えること。

改善の方向性

学習した知識・技能を繰り返し用いたり、実際の生活場面において使いこなす機会を多くもったりするような指導の充実。

「引用」の意味を理解し、目的に応じて文章の表現や情報などを適切に引用できるようにする指導の充実。

漢字を読んだり書いたりする機会を計画的に設定したり、国語辞典や漢字辞典の利用を習慣付けたりする指導の充実。

事実と意見、感想を区別し、読み手に伝えたいことの内容を明確にし、調べた内容や取材した事柄の中から取捨選択し、十分に伝えるように整理して書けるようにする指導の充実。

物語の展開に沿って、「いつ」「どこで」「だれが」「何をして」「どう思ったか」などを中心に物語のあらすじをまとめることで、場面の移り変わりを捉えることができるようにする指導の充実。

算 数

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の正答率は全国平均を下回っている。

・設問「小数の加法の結果を減法を用いて確かめる」の正答率は、全国平均と同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

「量と測定」「図形」「数量関係」の正答率は全国平均を下回っている。

「数と計算」の正答率は、全国平均と同程度であるが、やや下回っている。

・設問「正三角形の性質を基に示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求める」の正答率は、全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

異分母の分数の計算や除数が整数である場合の計算をすること。

角の大きさについて、測定の意味を理解すること。

図形の構成を図形の特徴と関連付けて捉えること。

図から立体図形を構成する要素の対応を的確に捉えるために、辺や面のつながりや位置関係について理解できるようにすること。

数量の関係を式に表したり、式に表されたことを図と関連付けて読み取ったりできるようにすること。

示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉え、基準量を正しく求めることができるようにすること。

改善の方向性

既習の計算、数直線や図などを用い、計算の意味や仕組みについて理解を深め、正しく計算できるようにする指導の充実。

測定の結果についての見当を付けたり、日常の事象と関連付けて考えたりする指導の充実。

作図などの活動を通して、図形のどのような特徴を用いているかを、確認する指導の充実。

立体図形を見取図や展開図で表したり、展開図から立体図形を作ったりする中で、辺や面を対応付けて観察する指導の充実。

四則の混合した式やかっこを用いた式の学習において、乗法と除法を用いて表された式が一つの事柄や関係を表していることや一つの数量を表すのにかっこを用いることなどを理解する指導の充実。

比較量を求める場面の考え方を基にして、数量の関係を把握できるようにする指導の充実。

理 科

本校の概要

【領域】

「物質」の正答率は、全国平均と同程度であるが、やや上回っている。

「エネルギー」「生命」「地球」の正答率は、全国平均より下回っている。

・設問「水の温まり方について実験結果から考え直した内容を選ぶ」の正答率は、全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述すること。

電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用すること。

顕微鏡の適切な操作方法を、身に付けること。

観察・実験のデータを分析し、証拠に基づいた結論を導き出すこと。

方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析すること。

改善の方向性

事物・事象をじっくりと観察したり、予想や考察を実験から得た具体的な数値と結びつけながら考えたりするなどの指導の充実。

学習を通して明らかになった性質や働きを活用したものづくりを行うなど、学んだことを目的意識をもって適用する指導の充実。

顕微鏡の各部位の役割や適切な操作方法を理解し、対象や目標に応じて操作できる技能を習得する指導の充実。

データから全体の傾向を読み取るなどの視点を与え、自然の現象と関連付けながら考察したり、言葉でまとめて説明したりする指導の充実。

様々な機会を通して観察・実験用具を使うとともに、必要感をもって観察・実験をする指導の充実。